

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	美術概論	
科目基礎情報					
開設学科	プロダクトデザイン科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	角田知義		実務経験の有無・職種	有・クリエイティブディレクター	
学習目的					
「アートとデザイン」の関係は、「サイエンスとテクノロジー」の関係に似ていると言われている。美術の全般的な知識を得る事で、デザインへの新たな視点を得る事を学習の目的とする。その為には先ず「美術がどのような視点、観察眼」で作品を作り続けてきたのかという事を知る必要がある。美術作品を観察、読解、技法を理解することから「美しさの創造性」「表現の創造性」への理解を深める方法の取得を目的とする。					
到達目標					
世界四大文明が発祥した時点で美術は存在していた。我々が培って来た文明の中で美術の存在とその役割を知ることは「表現」と「意味」の生成を知る事になり「文明、文化、歴史」への深い理解にも繋がっていく。西洋で価値観が大きく変わるルネッサンス以降、更に社会の構造が大きく変わる近代以降、人々と美術の関係、産業構造が変わるその中でデザインも育ち始める。歴史的な推移のなかで「社会、文化、産業、美術、デザイン」の関わりを西洋と日本からの2つの視点で見ると「現代の美術とデザインの理解を深める」ことを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	長い歴史を持つ美術、本授業は現代デザインが育ちはじめた19世紀からスタート。よく知られている「印象派」、当時は革命的な出来事だった、私たちが常識として持っている、美術の基本的な概念「美しさ」や「美術らしさ」「見る事への探求心」「意味をかたちづくる」「造形する技術」等、美術とデザインが持つ同じ課題に対して、過去の著名な作家達がいかに「イノベーション」を起こし、新しい創造をしてきたかという事を事例を参照しながら学ぶ。				
注意点	授業に集中してノートをとることが必要となる。各自の理解度の確認、講義内容に対しての質疑応答のため、毎時間「授業の振り返りシート」を記入、授業時間終了時に提出する。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価を受けることができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	最終レポート	55%	学期末のレポート、課題を総合的に評価する。		
	中間レポート	20%	授業期間中、デザイン概念の理解促進のための宿題形式のレポート（2回）。		
	振り返りシート	15%	毎時間、受講した授業内容を振り返りまとめ、時間終了時に必ず提出すること。		
	受講態度	10%	出席状況、遅刻の有無、受講態度を評価。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	美術概論を学ぶ基礎1		ガイダンス、デザインから見た美術＜復習：デザインとアートの関係＞、観察力		
2回	美術概論を学ぶ基礎2		西洋美術を学ぶための基礎知識、歴史と文明と価値観、イメージと実像		
3回	20世紀、抽象表現とデザイン1		抽象表現の直前、印象派の話からスタート（世界の近代化と美術の役割）		
4回	20世紀、抽象表現とデザイン2		光との絵の関係 印象派、ポスト印象派、ジャポニスム、写真機、写真の存在		
5回	20世紀、抽象表現とデザイン3		新しい色との関係 フォービズム		
6回	20世紀、抽象表現とデザイン4		新しい対象の捕らえかた キュビズム		
7回	20世紀、抽象表現とデザイン5		20世紀、新しい時代の表現 構成主義、未来派、シュールリアリズムほか		
8回	20世紀、抽象表現とデザイン6		デザインとの接点 抽象表現とバウハウスと表現実験の時代		
9回	西洋美術史の基礎1		古代美術から「美」の探求、美のルール作りを理解するには・・・		
10回	西洋美術史の基礎2		構図と色彩と透視図法（美術を構成する要素と基準）、ルネサンスの時代		
11回	西洋美術史の基礎3		イコノロジー（絵を読み解く文法）、中世の美術を知る		
12回	日本の美術の多様さ1		狩野派の華麗さ、殿様のアート、日本の芸道、家元制度		
13回	日本の美術の多様さ2		葛飾北斎、庶民のメディア・アート、江戸時代の視覚伝達		
14回	日本の美術の多様さ3		江戸から明治へ、西洋美術との葛藤		
15回	現代のアートを俯瞰する		ポップカルチャーとは何だったのか？アートとテクノロジーの越境		